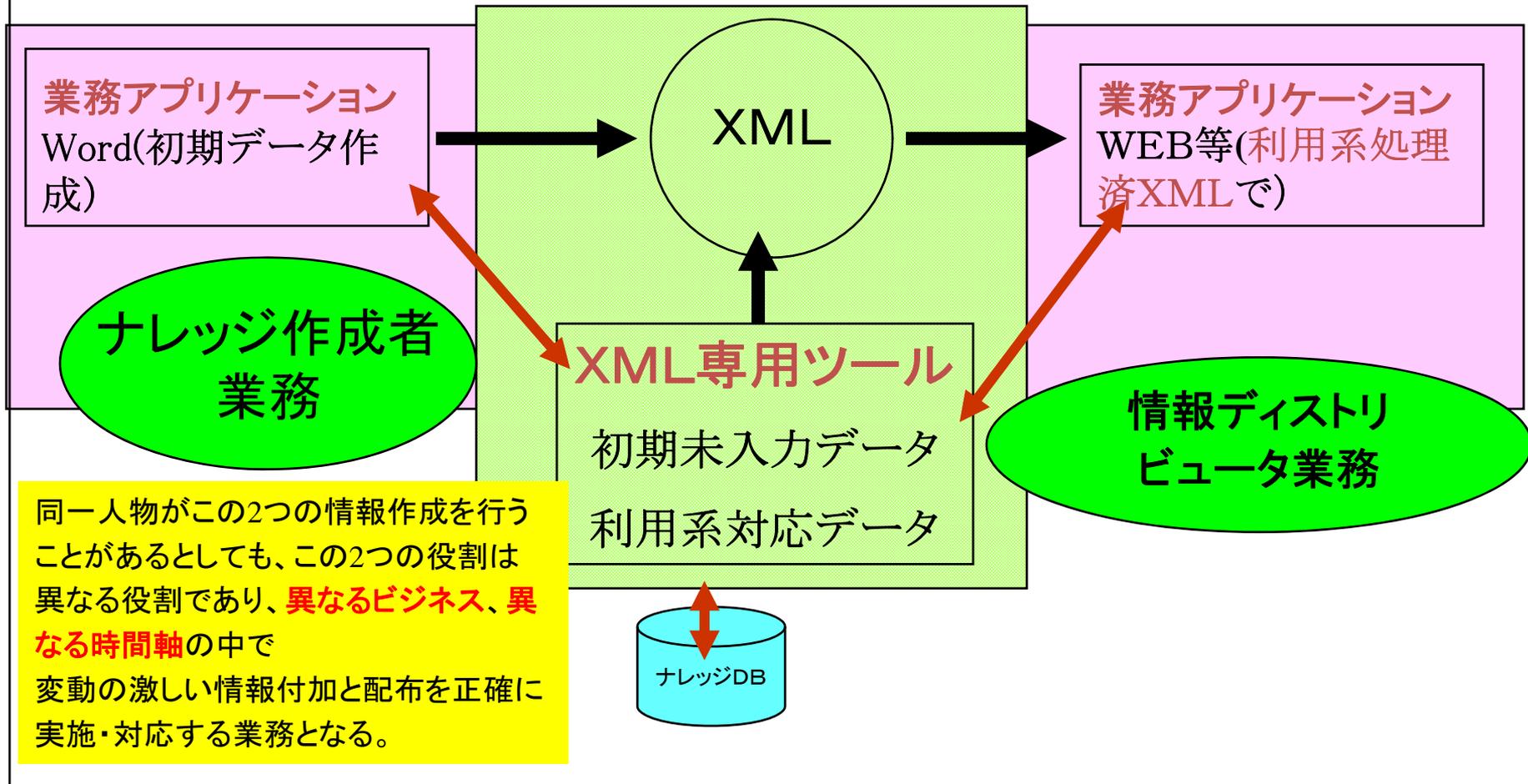


C-3. ドキュメントXMLの作成問題 (Word2XML)

従来左右の2つの業務を一人にやらせていた



W2Xで何ができるのか？ 事例集

平成19年2月
株式会社デジタルコミュニケーションズ

事例1:メーカー開発文書作成(マニュアル、納入仕様書作成ツール)

事例:O電気

課題



- マニュアルのDB化や内部の共同作業合理化の道筋が立たない
印刷物作成を主眼においてDTPを駆使してきたため
- 制作上の社内ルールなどが曖昧になりがち
- DTDに厳密に適合した文書を入力することが困難

要望



- 簡単に作業ができレイアウトイメージも可能なXMLエディタが欲しい
- 過去のマニュアルも同一の環境で利用したい
- 商品の一部でもあるマニュアルには高い印刷品質が求められるが、コストは最大限押さえたい
- 有機的な文書入力、管理フローを実現したい

W2Xを導入することで

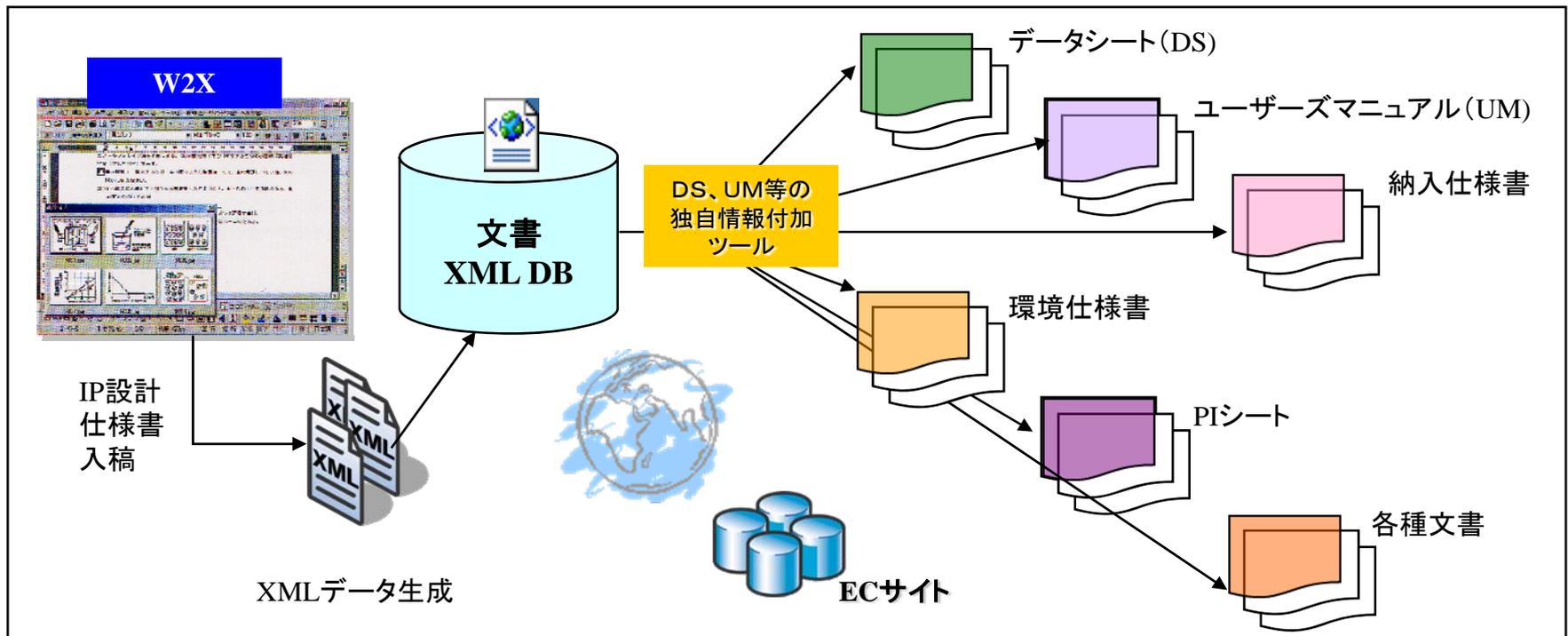
簡単操作で100%正確なXMLを生成可能なため、生産性の大幅向上および
ワークフローの効率化と各種用途へのマルチユースが可能となります

効果



- XMLによる文書管理データベースを中心としたワークフローの自動化と文書共有により、
全体工期が大幅に圧縮
- 既存原稿・版管理機能が格段に向上し、顧客からの原稿流用の要望にもすみやかに対応する
ことができるようになった。またデータの保守運用性も向上した。
- 印刷・組版だけでなくWEB・HTMLやPDF、e-Learning教材など、同一の文書データを
さまざまな用途に使うことができ、ワンソース・マルチユースが実現となる
- XMLによって蓄積された文書は、様々なフォーマットへの活用に耐え得る普遍性を持って
いるため、長期的な情報の資産化が可能となる

◆メーカー開発文書作成システム構築例



概要

- W2XでIP設計仕様書をXMLに変換しXMLDBへ格納
- 設計、DS、UMレベルで独自情報を付加
- WEBへの公開、ECサイトでの利用

効果

- データシート、ユーザーズマニュアル作成の効率化と大幅なコスト改善
- 書式の標準化(XML)による再利用の効率化
- 英語、中国語など外国語へのスムーズな対応
- 誤記、訂正フィードバック業務の時間短縮

事例2:自治体における広報・公報作成

事例:T自治体

課題



- 広報・公報文書作成時、部門毎に入力手段・方法が異なり校正に手間と時間を要する
- 印刷物やデータは全て印刷会社を経ているため、費用の削減と時間短縮がなかなか出来ない
- DTPの立上げは制作のスキルもワークフローも全く異なるため、自治体担当者だけでは困難

要望



- 広報部門だけでなく、全ての部門で簡単なデザインや編集処理が増加している現状、印刷物やデータをできるだけ印刷会社を経ないで庁舎内で完成させたい
- データベースや各種申請のオンライン化などデジタル化によって業務が大きく変化している中、業務継続の中でDTP化移行を実現したい

W2Xを導入することで

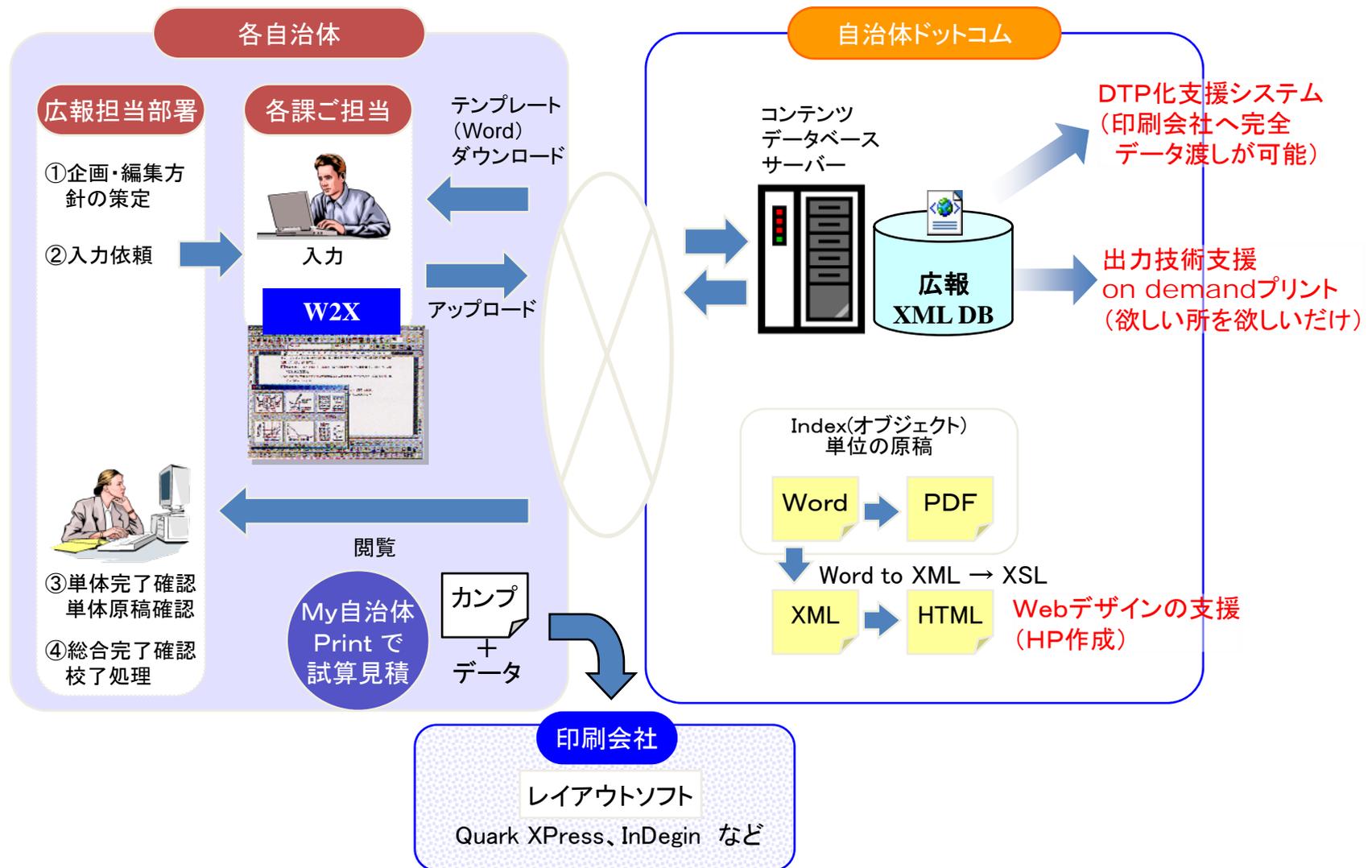
広報・公報作成手段の統一化が図れ、XMLDB構築によるDTPシステムへの容易な対応とオンデマンド印刷にも対応でき、庁舎内での内製化が実現できます。また異動が恒例である自治体の職員が利用すること踏まえた、スキルとノウハウを必要としない、広報誌作成システムの構築、コンテンツ作成およびWeb公開の効率化にも対応できるようになります

効果



- Wordのテンプレートを使用することで、広報誌のレイアウトや掲載項目の標準化が進む
- MacintoshやWindowsなどの使用OSの違い、QuarkXPress、EDICOLORやInDesignなどの組版ソフトの違いにもXML化することで対応が可能となる
- 将来的には、全国の広報誌の標準化をはかり、レイアウト、掲載項目などの標準化されたWordテンプレート 作成が可能

◆自治体における広報・公報作成支援ワークフロー例



◆自治体における広報・公報作成執筆シミュレーション例

広報担当部署の企画会議による紙面のベタ指定により、あらかじめシステムに登録されている各課担当の執筆者へメールによる執筆依頼が届きます。執筆者はレイアウトやデザインを考慮することなく、Wordテンプレートに情報を入力することにより、文字数制御、広報誌辞書DBによる文字変換などの執筆サポート機能を有効に利用し原稿作成ができます。

また、原稿はアップロード後にサーバーを介しIEでデザインを含めて確認できます。

送信者: 広報誌管理担当
 日時: 2006/3/29 20:44
 宛先: t-yamada@abc.or.jp
 件名: 5月号執筆依頼

呼吸器疾患の講演会および眼科検診の原稿を作成ください。(貼付ファイルへ)執筆後は、通常通りアップロードしてください。



t-yamada0329.doc

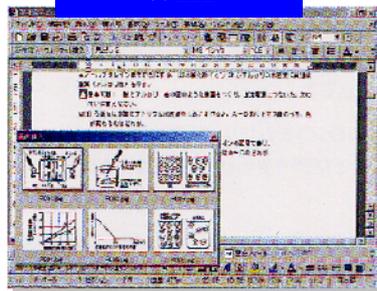
メールによる執筆依頼

レイアウトは流し組み・箱組みともテンプレートで管理します

W2Xによる執筆



W2X



アップロード



IEによるシミュレーション確認

事例3: 医薬品(機器)添付文書作成

事例: K製薬

課題



- 添付文書原稿を印刷会社へ入稿し構成(組み版)も依頼しているため、レイアウトデザイン等のやりとりに時間を浪費する
- 複数部門(マーケティング部門・品質保証部等)で添付文書を扱うため、部門間の共有ができない
- 出力先ごとにソース文書(紙、SGML、PDF、HTML)を作成するため、作成コストの増大および一貫性と適時更新の両立が困難

要望



- 当局登録用SGML文書を作成できるようにしたい
- 複数の担当者が並行して作業でき、部門間の共有を可能にしたい
- 修正内容の転記ミスや版番号間違いを解消したい
- 共通コンポーネント化により情報の一貫性を可能にしたい
- トータルコストを削減したい

W2Xを導入することで

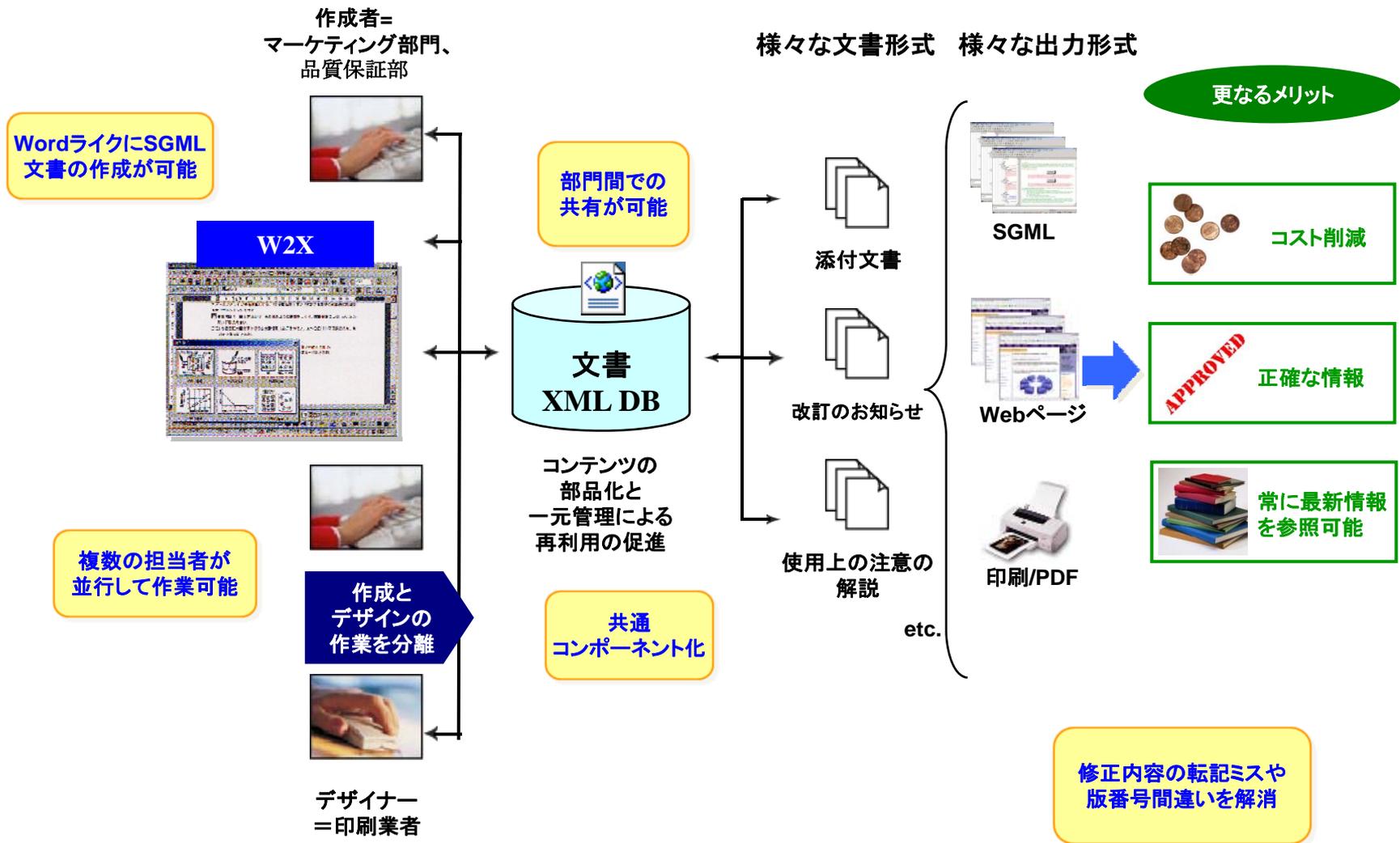
出力先毎にソース文書の作成が不要となり、コスト削減と作成時間の大幅短縮
およびXMLDBにより情報共有化と一貫性も実現できます

効果



- ワードライクで添付文書の作成・編集が可能
- ブラウザによる添付文書の校正イメージの把握が可能
- ワンクリック操作で作成した添付文書をSGML文書へ変換が可能
- 添付文書のPDF書式化が可能
- 添付文書のPDF書式化および共通コンポーネント化が可能

◆医薬品(機器)添付文書作成・管理システム利用例



事例4: 学術論文作成

事例: K製薬

課題



- 論文執筆者の投稿回数などの情報、投稿論文のタイトルなどの書誌項目情報が管理できない
- 審査委員の専門研究分野の情報や手持ちの仕掛かり論文数を把握できない
- 論文審査がどの段階で滞っているか分からない

要望



- 論文の投稿、審査、管理までのワークフローを簡単にしたい
- 論文内容、審査内容、問題点などをリアルタイムに管理したい
- XMLDB化により検索機能の向上、履歴管理、また出版物への迅速な対応を行いたい

W2Xを導入することで

Wordテンプレートによって、論文の入力項目や正確な文章量を把握でき、執筆後、WEB投稿してもらうことで論文の管理情報を自動的にDBに格納・管理できます

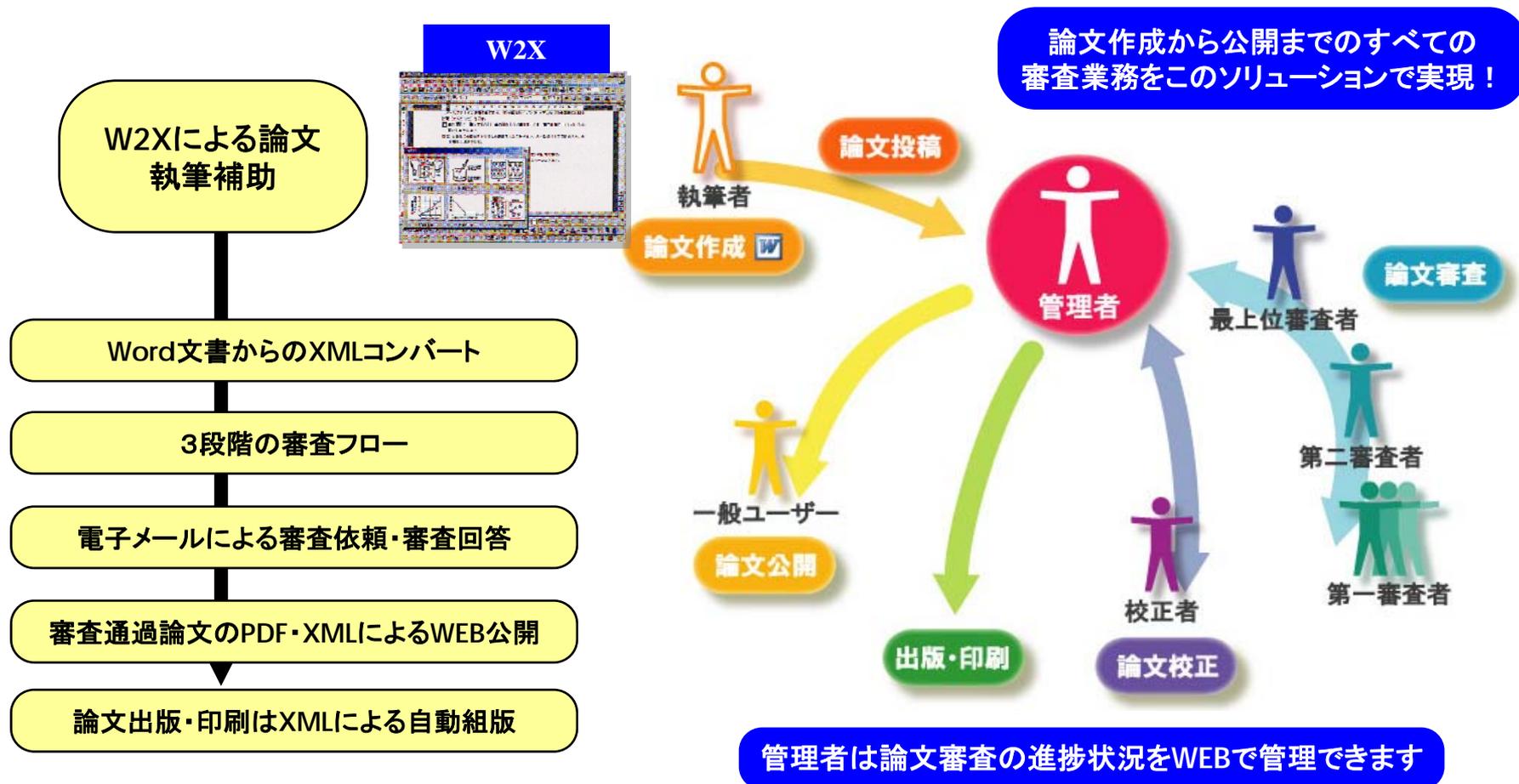
効果



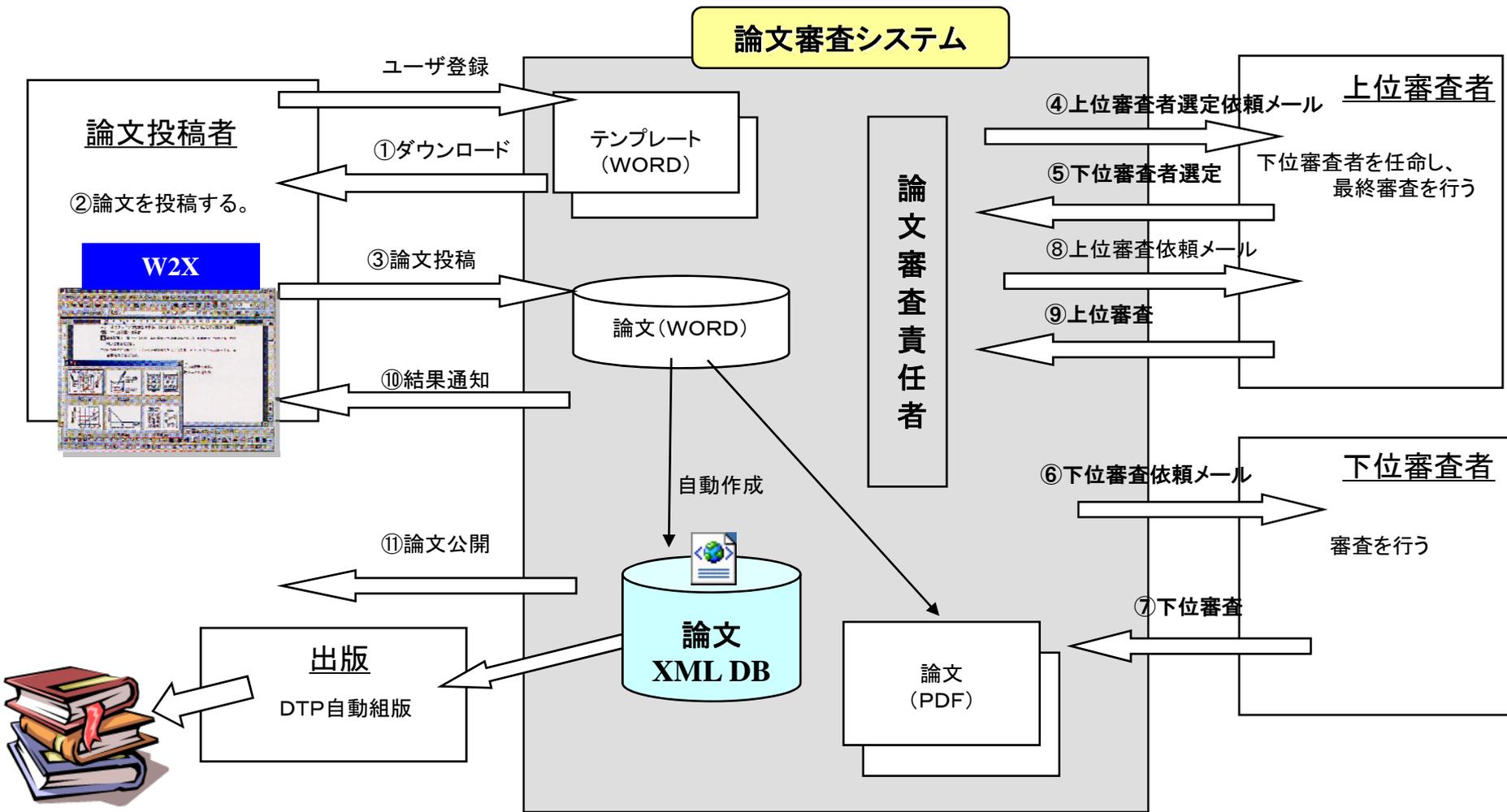
- XMLDBと電子メールの連動により、論文の審査依頼から審査結果の連絡まで対応できます。
- XMLDBに電子メールの内容を格納することで、管理者は論文の審査内容や問題点をいつでも把握することができます。
- 論文承認後の公開・出版を支援するソリューションです。
- 審査委員の方々の専門分野などが事前登録されているので、当該論文の審査適格者を自動的に選択できます。

◆学術論文作成ソリューション例

論文を審査・発行している大学・研究所・学会様向けに、W2Xを使って論文の作成・投稿をしていただき、電子メールによる審査・校正作業と履歴を管理し、論文承認後の公開・出版を支援するソリューションです



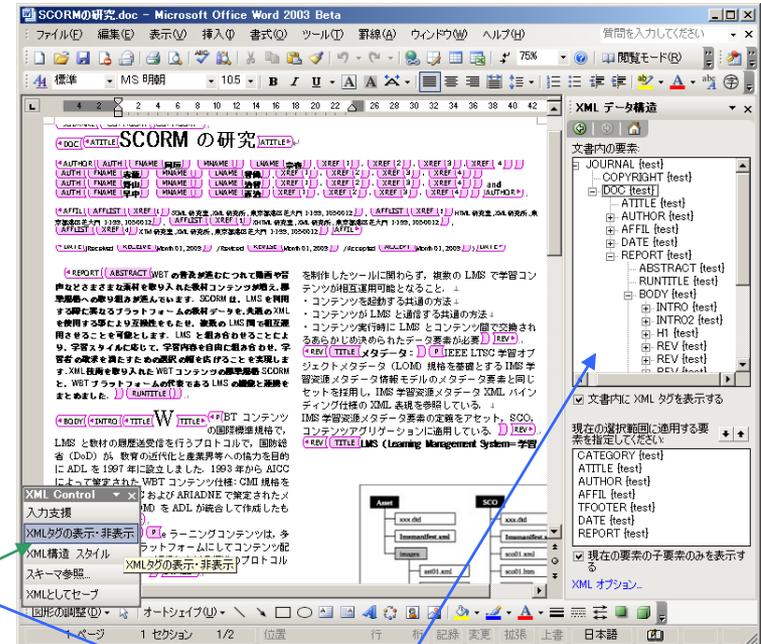
◆ 学術論文作成システム業務フロー例



Word2XMLテンプレート機能

●XMLタグは非表示

●XMLタグを表示



VBAの機能を使って
作成したツールバー

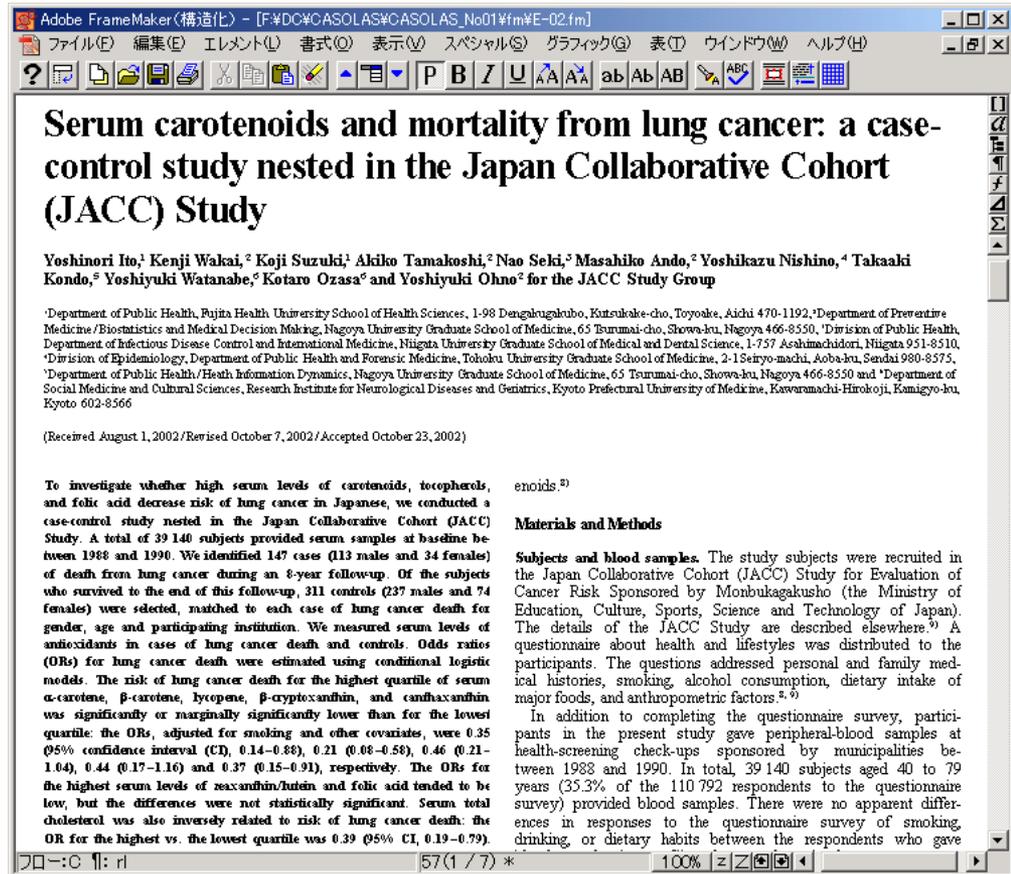
「XMLデータ構造」の
作業ウィンドウ

■XMLから自動組版へ

●XMLファイル



- ・ テンプレートファイル
 - ・ EDD
 - ・ RWルール
- の設定が必要



●Adobe FrameMaker画面

事例5: 塾、予備校向けテスト問題作成

事例: K塾、T予備校

課題



- 手間がかかる。印刷コストが高い
WORDで入力後、印刷会社でテスト問題用に組版している
- XMLのメリットは理解しているが作る方法が判らない

要望



- 印刷を含めテスト問題作成コストを削減したい
- XMLを使って自在にテスト問題を作成し他へも流用したい

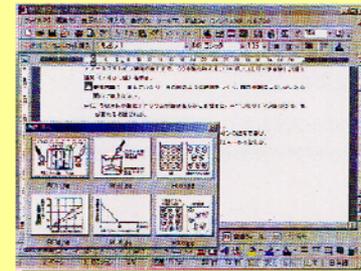
W2Xを導入することで

XMLの知識がなくても、普段使い慣れているWORD(W2X)を利用することで効率的にXMLDBの構築が可能となり、コスト削減とデータの再利用が可能です

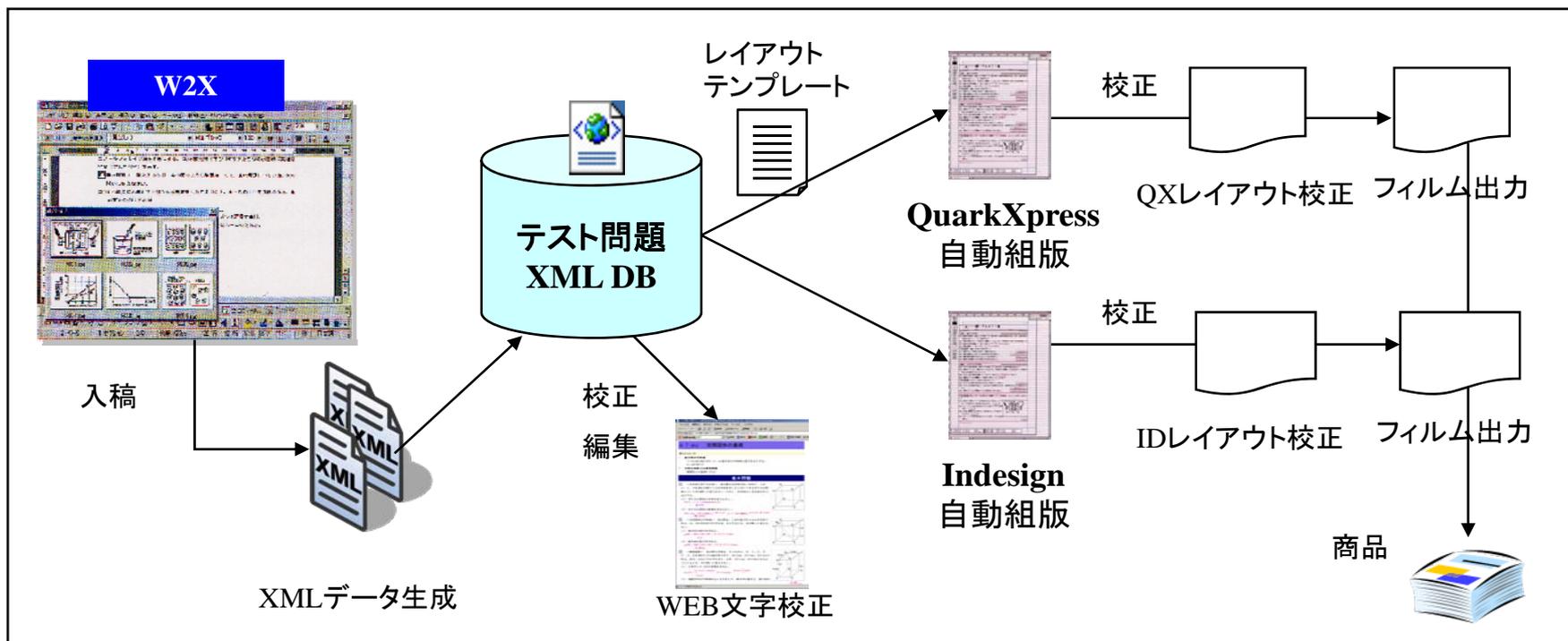
効果



- 大幅なコスト削減！
例: K塾 XMLDB化によって1問題作成に約400万(含む印刷)
→ ￥0
- 今後は紙ベースだけではなく、e-learningへの展開も可能となり、新たなビジネス展開による競争力強化が図れる



◆ テスト問題作成システム構築例



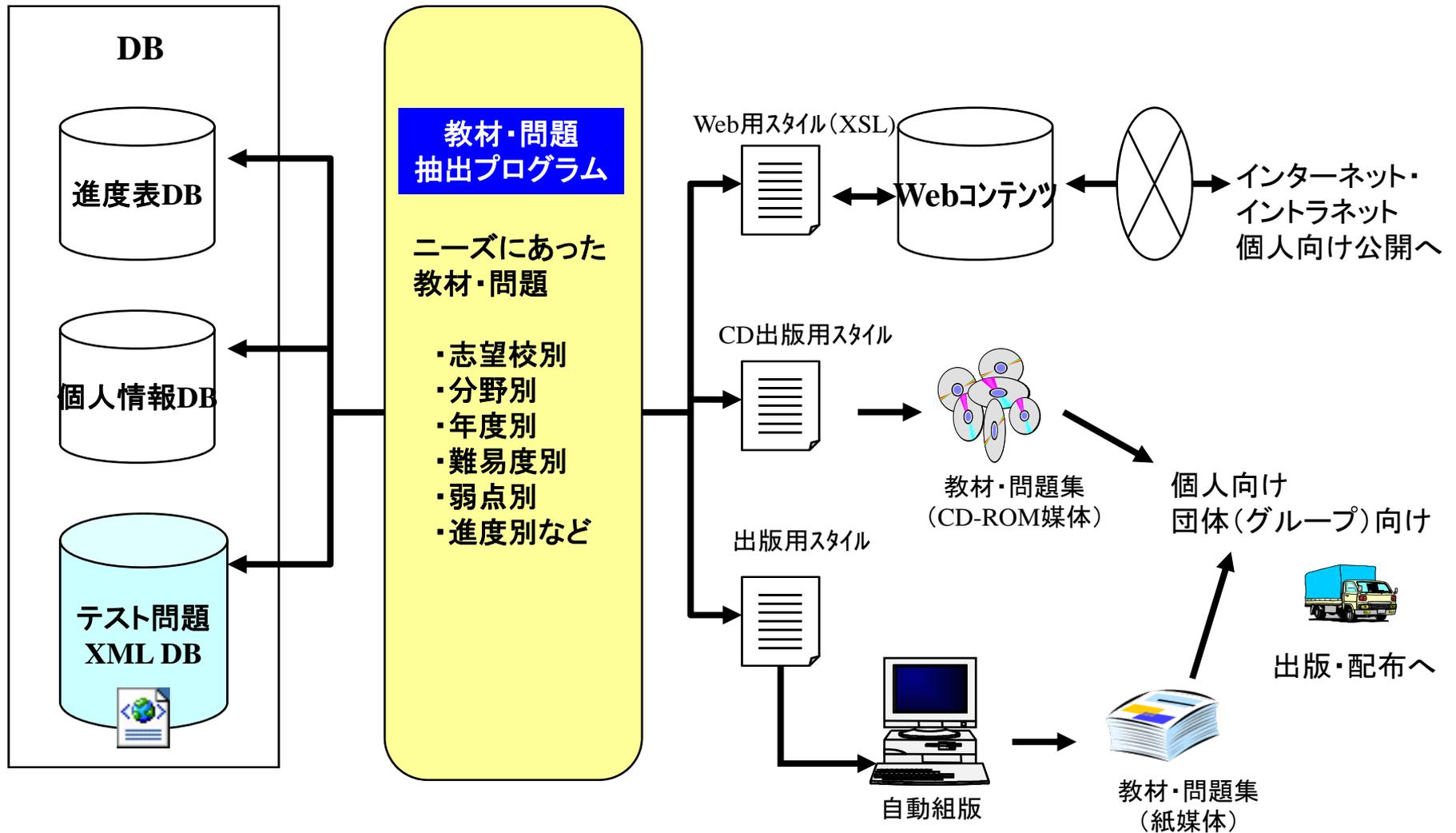
概要

- XMLDBからWEB内データの校正・編集を行う
- XMLDBからQuarkXpressやIndesignへのデータ流込みによる自動組版を行う

効果

- WEB校正での組版前の文字校正を行うことによるワークフロー改善
- DTP自動組版による制作時間削減と工程圧縮
- 今までDTPオペレーターが行っていた組版を自動化することによる人件費の大幅削減
- ワークフローの管理の容易性UP!

◆ テスト問題データの抽出システム構築例



対応DTD一覧

- ①JEPAX
- ②添付文書(医薬, 機器)
- ③eCTD
- ④マニュアル版
- ⑤JEITA
- ⑥学術情報
- ⑦XBRL(予定)
- ⑧DocBook(予定)
- ⑨センター試験
- ⑩QTI(イーラーニング向け)